

感謝の気持ちを忘れずに —山あり谷あり—



中村綾野

資生堂グローバルイノベーションセンター
[220-0011] 横浜市西区高島1-2-11
マネージャー
専門は高分子物理化学。
ayano.nakamura@shiseido.com

大学の研究室で高分子の世界に触れてから早20年以上、少しでも世の中に貢献する企業研究ができているだろうかと自問自答する毎日は続いている。とはいえ、このような執筆の機会をいただけたということは、私は幸せな研究生活を送れているのだろうと支えてくれる多くの方に感謝したい。

大学でハイドロゲルの研究をしていた私は、お客さまに直接製品を届けることができる化粧品メーカーの研究員となった。大好きな化学で人々の生活を彩ることができるなんて、とても素敵でワクワクして楽しいだろう、と胸を躍らせていた新入社員の頃をつい先日の事のように思い出す。

もともと細かな人生プランをもつタイプではないが、公私ともに思い描く理想と異なる展開もいろいろとあった。入社当時、まさに世の中で販売される製品に関わりたくて製品開発部門を希望したが、配属されたのは基礎研究部門、高い専門性を持ち基礎研究を推進するメンバーに圧倒され、悶々とした日々を過ごした。しかし、温かくかつ辛抱強く私の成長をアシストし見守ってくれた諸先輩方の存在があったことに、私の企業研究者としての原点があるように思う。企業の歯車としてではなく、研究者として一人前であれと説いてくれたことに、今も深く感謝している。

初めて分子設計から関わった高分子の素材を開発できた時、とても充実した気持ちを味わえた。化粧品の中のたった一つの素材だけれど、この素材がないと高い価値は生まれない。地味な存在だが大切な仕事に関われたことは大きな自信となり、さらに前へ進むモチベーションとなった。そして企業研究は多くの学問や部門とのコラボレーションがとても大切である。社内外知見を学び、足を使って仲間を増やし、さらには社外のコラボレーターのお力もなければ達成できなかったことは明白で、人のご縁の大切さやタイミングの重要性を学ぶことができた。

今置かれている環境は必然で、楽しみながら真摯に物事に取り組み、巡り合えたご縁を大切に過ごすこと、そして、“考え方は柔軟に”。これは20年前の自分に伝えたいことでもある。現在中学生と小学生の子供たちは、私を大きく成長させてくれる大切な存在だが、育児と

仕事の両立に大きく悩んだ時期もあったし、それは今も継続中だ。

勤務する化粧品会社は子育てをしながら働くロールモデルとなる女性研究員が多く、子育てや介護をする社員をサポートする制度も充実している。それでも、先輩のように仕事と私事を両立できていない状況に悩んだものだ。子育てを理由に仕事を疎かにしたくないし、そう思われたくないという気持ちが強すぎて、1週間近くも子供の看護でお休みをいただくことになったときなど、何とも言えないモヤモヤした気持ちとなった。そんなときは、もう少し長い目で自分自身のキャリアも周りへの貢献も考えるのが良いのかもしれない。どんな人も常に順風満帆ではなく、山あり谷あり、様々なことが積み重なって前に進んでいけると思う。その時に合わせた柔軟な考え方をもち、谷の時期も、来るべき山に向かって小さな努力をできることが理想かもしれない。

そして、そんな時も何より周囲とのコミュニケーションが重要だ。自分の置かれている状況はしっかり相手に伝えることがとても大事だと思う。推して知るべし、の考え方は誤解を招く原因となるので、真摯に謙虚に周囲と接し、相手に感謝することがとても大切ではないだろうか。言うは易く行うは難し、なかなか実行できていないが、常に心に留めようと思っている。

休日もまだまだ子供中心の生活だが、子供たちとの何気ないやりとりにもふと幸せを感じる。また、趣味のジョギングで心身ともにリフレッシュしたり、家族や旧友と他愛もない話に興じて思い切り笑ったり、そしてたまにはすべての呪縛から解かれて、ただただのんびりと過ごすこともある。仕事でも私事でも、私にとって人生のバランスを取るにはいろいろなことが必要だ。それを支えてくれる周囲のみなさんに感謝しながら、これからも山あり谷ありの長い仕事と私事生活を楽しんで過ごしたいと思う。

月日は流れ、気づけば所属部署でも上から数えたほうが早い年齢となった。これまでは自分のことで精一杯だったが、諸先輩方が私にしてくれたような後輩の育成も大切な仕事となる。それぞれの立場や置かれた状況に応じて充実した毎日を過ごし、成長していくサポートができるよう、新たな挑戦も楽しみたい。